

<開催中>

平山郁夫の絵画と アフガニスタンの至宝 ～流出文化財を守れ～

2005年7月9日(土)ー
12月11日(日)

- 【会場】 当館 本館および別館
- 【開館時間】 10:00～17:00(入館は16:30まで)
- 【休館日】 火曜日(祝日の場合は開館)、
7～9月は無休
10月からは毎週火曜日が
休館となります。但し、
祝日の場合は開館しています。
- 【入館料】 一般1,000円、高校生・大学生700円、
小・中学生500円(毎週日曜日は無料)、
障害者 無料(介護者は1名まで500円)
※70歳以上は100円割引
※団体(20名以上)は各100円割引
- 【主催】 (財)平山郁夫シルクロード美術館、
(財)文化財保護・芸術研究助成財団、
山梨日日新聞社・山梨放送、絲綢社
- 【後援】 山梨県、山梨県教育委員会、北杜市、
韮崎市教育委員会、南アルプス市、
甲斐市、小淵沢町、NHK甲府放送局、
テレビ山梨、エフエム富士、
平山郁夫美術館
- 【協賛】 キリンビール、ANA

ゼウス神像左足
前3世紀 アイ・ハヌム出土 大理石
彫刻のすばらしさのみならず、
大きさに圧倒されます。



アフガニスタンではタリバン政権下に遺跡や博物館で略奪が行われ、多くの文化財が国外へ流出しました。ユネスコ親善大使でもある平山郁夫画伯はアフガニスタンから流出した文化財を「文化財難民」として保護することを提唱し、日本国内で百三十七点の文化財が保護されました。現在、アフガニスタンの首都カーブルでは博物館の修復が終わり、遺跡の調査も進められています。流出文化財が新しいアフガニスタン政府に返還される日もそう遠くないでしょう。

当館では保護された百三十七点のうち、九十九点の文化財を展示し、アフガニスタンの文化を紹介すると共に、アフガニスタンを描いた平山郁夫の絵画と貴重な写真資料によつて内戦前と今日のアフガニスタンを対比し、文化財保護の大切さとそれに対する支援をあらためて訴えます。

平山郁夫欧州写生絵巻 —イタリア・ローマ編—

2005年10月5日(水)ー
12月11日(日) 本館二階コーナー展示



昭和三十六(一九六二)年秋に、第二回ユネスコ・フェローシップの留学生に選ばれた画家平山郁夫は、「東西宗教美術の比較」をテーマとして、翌年、昭和三十七年十一月二日に最初の目的地イタリアに旅立った。時に三十二歳であった。

のちに平山郁夫はこの旅を「古代、ルネッサンス、近代と、ヨーロッパ文化に接し、大変なものを学び、教えられた旅であった」と語り、この絵巻物を「記念の旅絵日記」と述べている。

この旅から外国の文化を通して日本を見ることがの重要さを学んだ平山郁夫は、やがて日本文化の源流を求めて壮大なシルクロードへの旅に出ることになる。

今回展示される絵巻物は、平山郁夫のシルクロード世界への第一歩とも云うべき記念碑的かつ珠玉の作品集である。

蒐集日和(2)

館長
平山美知子

美術館に展示されている二つが、人との出会いや私達と何かしらつながりがあったて集まってきたものです。

一九六八年七月から八月にかけて平山と私は二人では初めての海外旅行に出発しました。当時、アフガニスタン、パキスタンなど中央アジアへの旅行は少なく、旅行社も行き方が分からない頃のことでした。これは消失した法隆寺金堂壁画の再現模写班に加えていただいていた平山がその年の三月、三号壁を二人で仕上げたばかりで、二人での海外旅行はこれが最初で最後と書いていましたから、法隆寺壁画の源流といわれているインドのアジヤンターの壁画とアフガニスタンのパーミヤンの大仏の壁画を見たかと思ったからです。

インドは夏は五〇℃を越える暑さ

で、初めての旅行には無理という事で止めにしましたが、その他の国も決して楽な旅行ではありませんでした。日本と正反対のような国々でしたが、初めて日本を離れて、それぞれに重い歴史を感じさせられ、人々の一生懸命に生きている姿にうたれました。平山は旅の成果を次々に発表し、多くの賛同を受けたことで大いに力づけられました。

その翌年、私達はインド美術の大家、高田修先生の団に加えていただき、インド旅行をすることになりました。生涯に唯一度と思っていた海外旅行が次々に続けられたのも自然のなりゆきだったのですが、それも何かに導かれているように思ったものです。

その旅行は毎日(新聞社)移動教室といつて、インド美術に熱中している人達の集まりで二十数人いたと思います。インド美術の事など全く分からない私はその一行の熱心さに煽られた感じでしたが、本当に良い勉強になりました。旅行後、一行が時々集まり、旅行の思い出に花を咲かせるのが楽しみでした。そんな時に、パキスタン、アフガニスタンを旅行してガンダーラの像を持ってきた青年が、高田先生に見ていただきたいと来たことがあります。日本で見るガンダーラ

の仏像も素晴らしいものでした。

何も分からない私でしたが、その仏像の素晴らしさにひきこまれ、母が亡くなったあとだったので、母の供養のために一つ買うことにしました。平山は、自分の家にもその様なものがあるとゆつくり写生できると喜んでいました。そこで、平山の勉強になると熱中した時もあります。このよ

うな中に偽物というものも時々あります。真贋の区別を調べることもよい勉強になりました。

ガンダーラをはじめ、大きなもの小さなもの、その時々種類は様々ですが、美術品の価値は大小にかかわらずないと思っています。私達のコレクションはダイヤモンドのような価値とは違い、そのものがたどってきた歴史に意義があると思っています。そして、何百年何千年も人の手に受け継がれてきたもの、土の中に埋まっていた出土したもの、それぞれに人の思いがこもっているように感じられるのです。私達は何かしら語りかけてくるようなものがよいものだと思っています。



仏陀像頭部 クシヤン朝時代 2~3世紀 パキスタン(ガンダーラ)出土